

高度口腔機能教育研究センター

センター長 教授 前田健康

高度口腔機能教育研究センターは平成27年度文部科学省特別経費（プロジェクト分）として採択された「ネットワーク型教員組織の構築によるレジリエンスな教育研究拠点の形成」により、平成27年4月に設置された。平成28年度からの第3期中期目標期間を見すえ、歯学部、医歯学総合研究科口腔生命科学専攻・口腔生命福祉学専攻の機能強化を図る上で、①若手人材の登用難をはじめとする教員組織の硬直化、②現行の講座制では学際的な教育・研究には対応が難しいこと、③歯学に対するニーズは多様化していること、④大型研究費獲得に向けた共同研究体制の整備が遅れていること、⑤高等教育の質保証、歯学教育の国際標準化の流れの中でのアイデンティティーの確立、といった点が課題としてあげられていた。これらの課題解決には新たな人事制度等の改革を行い、教員組織の活性化を図り、機能強化に向かう必要がある。また、超高齢社会を迎えた我が国で、歯学分野は口腔機能の維持あるいは回復という重要な役割を担っているが、各教育研究分野では独自の研究成果を生み出しているものの、シームレスな環境で切磋琢磨する競争的環境下での共同研究体制は確立されていない。このような背景の中、高度口腔機能教育研究センターは若手人材を中心に学際的、異分野融合の教育・研究をプロジェクト主導で推進することを目的としている。また、平成27年9月完了の総合研究棟（歯学系）の大型改修工事により、歯学部校舎面積17,500㎡のうち10%強にあたる約2,000㎡をコモラボ、アライアンスラボスペースとしたが、この共有スペースへの大型機器の集約化、教育研究分野間の壁を越えたプロジェクトベースの研究の実施、スペースの管理を主な業務としている。また平成28年度からは機能強化分として「若手研究者が集うレジリエンスな口腔保健教育研究拠点の形成」ーネット

ワーク型教員組織の構築と実質化による総合的な機能強化ー」に採択されている。

専任教員として、教授1名、助教3名が所属し、さらに特任准教授1名、特任助教2名の計7名が配置されている。助教3名は平成26年度国立大学強化推進補助金【特定支援型】の支援により、特任教員3名の配分を受け、平成27年4月1日付で承継教員に切り替えられて、年俸制助教として採用された若手教員である。この3名の助教はいずれも長期在外研究経験を有する者である。その後、平成27年6月1日にセンター長として前田健康が就任した。また特任准教授、特任助教1名をセンター教員に配置換えし、平成28年4月1日付で新たに特任助教1名を採用し、平成28年7月1日現在のセンター所属教員は以下の通りとなっている。またプロジェクト研究を実施する歯学系教員はセンターの併任教員としている。

教授 前田健康（センター長）

助教 前川知樹、川崎勝盛、加藤寛子

特任准教授 井上佳世子

特任助教 原田史子、高橋直紀

高度口腔機能教育研究センターの短期的な使命として、教員組織活性化のため、研究ユニットリーダーに教授のみならず、准教授以下の教員、学内外の教員を登用し、学際的な研究ユニットを組織することとしている。研究ユニットの立ち上げに際しては、分野融合的な展開を想定したオープンラボの基盤整備を行い、歯学系が進めている4つの大きな研究カテゴリーを縦横に組合せ、以下のような研究テーマへ展開する。

- ・口腔環境研究：誤嚥性肺炎制御、全身疾患と口腔疾患の関わり の 解明
- ・摂食嚥下研究：口腔リハビリテーション、介護食・食支援器具開発・応用

- ・再生工学研究：口腔発生機構及び再生工学、口腔システム機能の再構築、神経傷害性疼痛制御
- ・口腔保健福祉研究：口腔保健プロモーション、地域包括ケア研究

また、①ラボユニットを活用したQOL向上を目指す歯学研究の高度化、②国内外ネットワークを活用した新潟大学歯学部グローバルプレゼンス事業を推進することとしている。

①のラボユニットを活用したQOL向上を目指す歯学研究の高度化では、

(a) 超高齢社会への貢献、口腔からのQOL向上をキーワードに、年俸制教員、若手特任教員、プロモーション教員を配置し、共同研究を進めるとともに、大学院生の教育の場としても活用する。

(b) 大型研究費の獲得、科研費採択金額の増加および新潟大学発医療イノベーションの創出を目指す。

(c) オープンスペースでの大型機器の共有化を進め、学内外に開放するとともに、地元食品産業等

との共同研究の場を設定する。

②の国内外ネットワークを活用した新潟大学歯学部グローバルプレゼンス事業では、

WHOを中心とする海外ネットワーク、外国人教員・学内センターとの連携強化、学生・若手教員の海外エクスターン、若手外国人研究者の招聘と共同研究により、口腔保健の世界スタンダードを発信するリーダーシップ獲得を目指す。さらに、ネットワーク型教員採用に際し、海外で一線研究を推進している若手優秀留学生をPI (Principal Investigator) 待遇とすることで獲得し、帰国前の所属機関との先端共同研究と若手人材の相互交流を図る。

これらの取組により、大学改革のモデル、歯学研究の高度化、人材供給・情報発信地としてのハブ機能の実質化により、本学歯学部のプレゼンスを高め、優良人材の確保と次なる機能強化に努めることとしている。

